

# 救援・復興県民会議だより

〒020-0015

盛岡市本町通2-1-36

浅沼ビル6F

電話・FAX(兼)

019-601-5133

メールアドレス

fukkou\_ikg@hyper.ocn.ne.jp

〈発行〉東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議 No.23 (15. 3・17)

## 『2・13被災者の声を聴け！国会総行動』



### 400名が結集。

189通常国会開会中の2月13日昼、衆議院第2議員会館前において、岩手・宮城・

福島の被災3県、全国災対連で構成する実行委員会が主催する「2・13被災者の声を聴け！国会総行動」が400名の参加で開催されました。岩手県内からは、久慈地区（野田村含む）を、宮古地区（山田町含む）、釜石地区（大槌町を含む）、けせん地区（大船渡・陸前高田）の各被災地からの代表をはじめ、復興県民会議役員、県団体組織代表など47名が参加しました。



被災3県や広島をはじめ、東京首都圏・中央団体からの参加者は、実行委員会構成団体が用意をした横断幕や「小〇」などのノボリを掲げました。集会は金野復興岩手県民会議代表世話人の進行で行われ、構成団体を代表して綱島・復興宮城県民センター代表委員が主催者挨拶を述べまし



た。来賓として、小田川全国災対連代表世話人（全労連議長）、そして高橋、堀内、大平の日本共産党衆議院議員がかけつ、20年目を迎えた阪神・淡路大震災、広島土石流災害からの復旧・復興の取り組みなど述べながら激励挨拶をしました。

## 大震災津波から4年、「一日も早く足を伸ばせる暮らしを」

### 前川慧一代表世話人が生活再建支援金増額を訴える

被災地からの決意表明では、岩手を代表して自



らも釜石鶏住居地区で被災した前川慧一代表世話人が、被災者の声を紹介しながら住宅再建のための国の支援金500万円への増額は



待ったなしの切実な要求だ、と訴えました（訴えの全文は、別項で紹介します）

昨年8月の豪雨による土砂災害で多数の犠牲者を出した広島の前川慧一代表は、「都市型災害はどこに起きてもおかしくない、国はもっと自力再建のための支援を」と訴えました。

## 国会に向かって、被災者要求実現をアピール



最後に集会参加者は全国災対連事務局の音頭で、国会に向かって被災者生活再建支援金500万円への増額、医療費・介護保険利用料の免除措置を国の責任で復活、損害賠償打ち切りはやめよ、復興予算を確保せよ、などのシュプレヒコールを行って終わりました。午後からは復興庁など各省要請を行いました。



(各省からの出席者)

(会場から、質問・発言をする県内参加者)

## 内閣府・厚労省・復興庁に対する要請

午後からは、衆議院第1議員会館内の大会議室に移り、短時間で各省要請に向けての打ち合わせ会議を持ちました。冒頭、金野代表世話人が実行委員会を代表して、昨日の東北生協連が約56万を超える国会請願署名を提出（22名の国会議員が紹介議員に）し、政府要請に同席をしたことなどの報告も含め主催者挨拶をしました。

その後、各省庁要請が参加者が出席するもとで行われました。大会議室では内閣府・厚生労働省・復興庁の各担当者が出席。

○ 内閣府には被災者再建支援制度を抜本的に見直すこと（①現行300万円の支援金の最高額を500万円に増額すること、②支援金の支給について、半壊も対象に含めるなど支給対象を拡大すること、③当該支援金の申請期日を延長するとともに、国の負担割合を引き上げること、④自宅再建の難しい被災者に対して、家賃補助など総合的な住宅確保の支援策をけんとうすること）

○ 厚労省には、「被災した被保険者等の医療費一部負担金、介護保険の利用者負担の減免措置を復活すること。また、社会保険被保険者も対象とすること」。

○ 復興庁には、「2016年度以降の復興財源を地元負担なしで確保するとともに、地方自治体の

権限で使える財源を確保すること。また、防災集団移転事業による自治体への土地買い上げが所得とみなされ、住民税などの負担増となり、居住費や食事代の不足給付の軽減措置が受けられなくなるなどの事態が生じており、所得とみなされない特例措置をはかること」

この大会議室は別に、福島からの参加者を中心に経済産業省、岩手からの参加者を中心に国土交通省（穀田衆議院議員室におい）、宮城県からの参加者を中心に農林水産省とそれぞれの会議室等において要請が行われました。

## 被災者の声や思いに誠実に応えない対応に、参加者から怒りも

参加者が被災者を含め200名を超える中で、出席した各省の担当者はこれまでの施策について、現行のままという態度に終始。こうした態度に声を荒げる場もありましたが、1時間にはわたって、各省担当者が被災者の生の声を聞く場ともなりました。なお、厚労省は現行の10分の



厚労省、国交省要請について報告する斉藤信常任世話人

8補助」を来年度以降も継続することが明らかになりました。また、国交省はJR大船渡線の鉄道復旧については参加者の追求にまともに応えませんでした。



## 引き続き、被災地でのたたかいを進めようと激励

兵庫復興県民会議代表が独自に行った省庁要請の報告と合わせて連帯の挨拶を、会場に遅れて戻ってきた福島の代表が経産省要請の報告をしました。会場にかけてつけてくれた仁比日本共産党参議院議員

（堀内衆院議員同席）が激励の挨拶をしました。

最後に、住江憲勇全国防災対連代表世話人が前回行った（2013年12月13日）に比べて参加者の各省庁への追求が数段レベルが上がったと感想を述べるとともに、被災者本位の一日も早い復興、原発の損害賠償対応を、引き続き国に迫っていかうと呼びかけて閉会しました。



## 2・13被災者の声を聴け！国会総行動」での 前川慧一代表世話人の決意表明

東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議の前川慧一でございます。今、岩手の仮設住宅入居は約2万3千人で、ピーク時の約7割に及び方々が、厳しい寒さに耐えながら、「希望」の春が訪れるのを祈り、拝む気持ちで待ち望んでいます。

被災者の「希望」の第1は「自宅の再建です。手足を伸ばしゆっくり眠りたい」という人間らしい暮らしです。

私たち岩手県民会議に、仮設住宅暮らしの方々から次のような思い、声が寄せられています。『仮設では死にたくない。せめて、次の家で手足を伸ばして眠りたい』『どんな小さい小屋でも、自分の家で一生を終えたいと思います。早く自宅が再建できるよう助けて下さい』

『早く自分の家に帰りたい』との願いも空しく長引く仮設暮らしの中で体調をくずし、入院なされていたお年寄りが、最近、相次いで亡くなっています。ご遺体は、一旦、仮設でもわが家に安置すべきところですが、仮設住宅の玄関はせまく、棺をいれることができません。ご遺体はやむなく葬儀場に直送されています。ご遺族の無念さ、悲しみはいかばかりでしょうか。仮設暮らしの人々は死んでも仮設さえ帰ることができません。これが現実です。

また、ある方からは『おかげさまで、今日まで生かしてもらってきました。でも建築費がどんどん上がり、お金が足りません。仮に建てても、その後の暮らしが不安です。そう思うと吐き気がし、胃が痛くなって、眠れぬ夜を過ごしています。年のせいかと思って

仮設暮らしのご近所の方々に話してみたら、みんなからオラ（自分）もだ、オラもだ』と言われました。

あるひとり暮らしの障がい者が暮らし仮設は、2畳の台所と5畳半のワンルームです。ベッドを置けば、車いすの回転はできません。玄関に行くには、直進かバックしかできません。どうにか回転しようとして車いすと転倒することもあります。早くまともな住宅への転居が必要ですが、災害公営住宅の建築は遅れていて入居はまだまだ先のことです。

本日、私どもは「被災者本位の一日も早い復興を求める請願署名」と「被災者生活再建支援制度の拡充を求める請願署名」、約15筆の請願署名を持参しました。私は、不安な日々をおくっているばあちゃん、じいちゃんに言ってあげたい。「心配しなくていいんだよ。政府がちゃんと面倒見るからね」って。

そう言ってあげられる政治、「積極的福祉主義に徹する政治、被災者の自宅再建資金の500万円への増額、災害公営住宅への早期入居など、被災者の声、願いにこたえる政治の実現へ向けて、共にがんばりましょう。

## 全国災対連第16回総会開催

2・13国会総行動を前にして、衆議院第1議員会館会議室において



午前10時半から、全国災対連第16回総会が開催されました。総会には、中央の加入団体や全国各地の加入組織から代表が出席（広島県災対連は初参加）復興岩手県民会議から鈴木事務局長が出席し、現状と課題を発言しました。提案された議案、決算・予算、次年度役員は、全体の拍手で採択、承認されました。日本共産党から新人3人の衆議院議員が出席、堀内議員が挨拶をしました。代表世話人に小田川義和、住江憲勇、笹渡義夫を世話人15人（川村好伸事務局長含む）を選出。